

シンポジウム記録 震災被災地の水産業と漁村の復興

水産利用懇話会委員会の行動計画

松宮政弘^{1,2}

¹日本水産学会水産利用懇話会委員会,

²日本大学生物資源科学部海洋生物資源科学科

Action plan of the Steering Committee for
the Colloquium on Utilization of Marine Products

MASAHIRO MATSUMIYA^{1,2}

¹Steering Committee for the Colloquium on Utilization of Marine Products, ²Department of Marine Science and Resources, College of Bioresource Sciences, Nihon University, Fujisawa, Kanagawa 252-0880, Japan

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震およびそれに伴う津波により、東日本太平洋岸では甚大な被害が生じた。水産利用加工面においては、その主軸である水産加工工場が原料の集積地である港付近に多く立地していたため、沿岸部の工場では津波による被害が甚大であった。表 1 に 7 道県の水産加工施設被害状況を記載した。特に被害の大きかった岩手県では大半が施設流失・損壊、宮城県では半数以上が壊滅的被害を蒙った。

平成 23 年度水産利用懇話会委員会は食品関連企業(㈱紀文食品, キューピー㈱, ㈱極洋, ㈱クレハ, 東洋水産㈱, 日本水産㈱, ㈱ニチレイフーズ, ㈱にんべん, ㈱マルハニチロホールディングス)より 9 名, 大学より 8 名, 食品分析・検査関連機関より 4 名および水産総合研究センター中央水産研究所より 2 名の委員が選出され、委員会を運営している。今回の震災により、委員が所属する企業グループの東日本太平洋岸の工場・物流センター等においても死者・不明者が多数生じ、また設備においても甚大な被害が生じた。被害状況と業務再開の見込みは多岐にわたり、停電・床上浸水・機械設備一部損壊では再開あるいは再開の見込みであるが、製造設備冠水・一部の工場建屋を除き全壊状態などの被害が甚大な状況では、復旧の見通しはたっていないあるいは事業継続の可否を検討中の段階である。

そこで、当委員会としては震災復興、特に水産加工・流通業界の復興に役立つ講演会を平成 23 年度に 2 回(第 1 回は平成 23 年 10~11 月頃を予定)開催することとした。当委員会委員の所属企業グループでも甚大な被害が生じていることより、講演会の演題および演者は委員各位から直接意見・希望を聴取して選定することとした。震災後約 3 ヶ月経過した 6 月 21 日に開催した委員会において、委員から提案された演題(案)は次の 3 件にほぼ集約された。①東日本大震災半年後の被災地の水産業の現状と復興状況 ②水産物の安全性に係わる今後の問題について(放射能汚染) ③被災地の復興に向けた行政からの水産加工への取り組み:特に食品関連企業の委員から、「今後、企業としてどのように復興に取り組むかは国の政策を見ながら決めたい」との意見が多く

表 1 水産加工施設被害状況 平成 23 年 5 月 9 日農林水産省

加工施設についても、特に岩手県、宮城県で大きい。中小企業が多く被害状況の把握が遅れており、詳細は調査中。(7 道県の太平洋側)

	加工場数 (漁業センサス)	主な被災状況
北海道	570	一部地域で被害 半壊 4, 浸水 27
青森県	119	八戸地区で被害 全壊 4, 半壊 14, 浸水 39
岩手県	178	大半が施設流出・損壊 全壊 59, 半壊 6
宮城県	439	半数以上が壊滅的被害 全壊 304, 半壊 17, 浸水 29
福島県	135	詳細不明
茨城県	247	一部地域で被害 全壊 21, 半壊 47, 浸水 7
千葉県	420	一部地域で被害 全壊 6, 半壊 13, 浸水 12
計	2,108	全壊 394, 半壊 101, 浸水 114

被害数は水産加工団体からの聞き取り。

表 2 平成 23 年度水産利用懇話会委員会第 1 回講演会の内容

公益社団法人日本水産学会水産利用懇話会平成 23 年度第 1 回講演会	
・テーマ:東日本大震災後の東北地方における水産業の現状と今後の展望 —主に水産加工・流通について—	
・日時:	平成 23 年 11 月 8 日(火) 15:00~17:40
・会場:	日本大学生物資源科学部(神奈川県藤沢市)中講堂 2 (小田急江ノ島線六会日大前駅下車, 新宿より約 1 時間 10 分)
15:00-15:05	開会挨拶
15:05-15:50	被災地の現状 岩手県復興局産業再生課 総括課長 伊藤克宏 氏
15:50-16:35	水産物の安全性に関わる現状と今後の問題 ㈱海洋生物環境研究所 中原元和 氏
16:35-17:20	復興に向けた行政からの取り組み 水産庁漁政部加工流通課 課長補佐 佐藤一絵 氏
17:20-17:40	総合質疑

出された。そこで当委員会では表 2 に記載した第 1 回講演会を企画し、本シンポジウムや水産学会ホームページ等で開催を広く通知した。

なお、演者の中原氏および佐藤氏より講演予定内容の概要を前もって伺っていたので、それらも本シンポジウムで参加者にお知らせした。第 2 回講演会開催を平成 24 年 2 月に計画している。第 2 回講演会においても水産加工・流通業界の復興に役立つ講演内容の実施を予定している。